

～患者団体向けインフォメーション・セッションを開催～

## ＜「言語によるコミュニケーション」と「非言語でのコミュニケーション」に関する講義とワークショップを実施＞

2名の講師による講義 + 「声の出し方、話し方、伝え方」をテーマとするワークショップで、実践的なトレーニングを展開

日時: 2014年4月18日(金曜日)

場所: 東京・飯田橋

PhRMAは、日本の患者団体の方々への支援活動の一環として、去る2014年4月18日(金)、2014年度1回目となる「インフォメーション・セッション」を開催しました。今回は、患者団体の方々にとって日常的に発生すると考えられる“記者会見”や“発表”などの機会において、「伝えたい情報」を「正しく伝える」ためのスキル習得・向上に主眼をおき、「声の出し方、話し方、伝え方」をテーマにワークショップを行いました。

2011年以降、PhRMAでは患者団体の方々へ向けて、当セッションを通じ、“他国の医療制度”や“保健制度の実情”、また“日本の患者団体による、医療政策に関する提言・参画事例”を紹介する講演やディベート・トレーニングやメディア・トレーニングなど実践的なスキルを身につけるためのワークショップを経験していただく機会を設けています。今回は、患者団体の代表を務める方々の普段の活動において、たとえば記者会見や取材の現場でメディアとのコミュニケーションが必要となるケースや、その他、対象がメディアでなくとも、日常的に発生する団体の紹介や、その活動を発表する機会など、あらゆる「伝える機会」に実際にお役立ていただけるようなプログラムとしました。

### ■ワークショップ・講義 講師: 高木 正明氏(元・東京工業大学 特任教授)

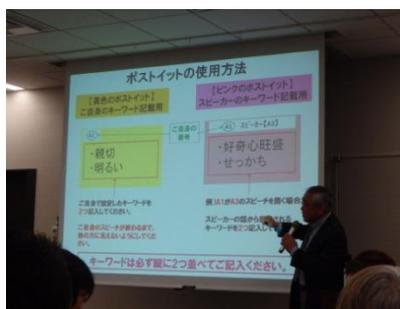
#### 『グループワーク1: パーバル(言語)コミュニケーションの実習』

はじめに、2013年12月に開催した、前回のインフォメーション・セッションでもご登壇いただいた、元・東京工業大学 特任教授の高木 正明氏が、パーバル(言語)コミュニケーションについての講義とワークショップを実施しました。講義は、プレゼンテーションのアプローチ方法におけるパーバルコミュニケーションを解説する形ですすめられました。

その後のワークショップでは、事前に定めた5～7名ほどのグループ(7組)に分かれて、それぞれ“自分自身”について、『二つのキーワード』に基づき、1分半～2分間で発表し、他のグループ内のメンバーがこの『二つのキーワード』を聞きとる、という形式で進められました。つまり発表者の意図が聴衆に正しく伝わるかどうかを検証することが目的でした。この検証は、2回行われ、2巡目のテーマは、“所属する団体”についてでしたが、当初の狙い通り、1回目終了後に、初めて高木講師より、このトレーニングの意図を説明したため、発表者と聴衆の「二つのキーワード」が一致する度合いは、わずか数十分の間に、飛躍的に向上したことを参加者それぞれが実感していました。

講師: 高木 正明氏

ワークショップ・講義 風景



■講義 講師:森 裕喜子氏(ボイスイメージ®コンサルタント)

『伝わる話し方とは? -ノンバーバル(非言語)コミュニケーション』

ボイスイメージ®コンサルタントである森氏から、ノンバーバル(非言語)コミュニケーションについての講義が実施されました。講義では、ノンバーバルコミュニケーション(非言語)の中でも特に“コミュニケーションの原則”や“声の力”、“人前力”、また“わかりやすく話す力”などについて説明していただきました。

講師:森 裕喜子氏



■ワークショップ 講師:森 裕喜子氏

『グループワーク2 :ノンバーバル(非言語)コミュニケーションの実習』

続いて森氏より、人前で何かを伝えるときには言葉以外の情報である、声や目線・ジェスチャーといった聞き手の目に映る「視聴覚情報」も大変重要であるということについて講義と、それを体感するワークショップを行いました。

ワークショップではひとりずつマイクを持ってスピーチを行っていただき、聞き手からのフィードバックから、ご自身の「話す時のクセ」を知っていただきました。

記者会見を想定した、具体的な動作を交えての講義には、実際に参加者もその動作を真似て行う姿が見られました。

講義 風景



ワークショップ 風景



## ■ワークショップ 講師:高木 正明氏

### 『グループワーク1の振り返りとディスカッション』

最後に、高木氏から最初のグループワークの結果を踏まえて、グループの他の人に、内容がどのように伝わったのかを検証するお話がありました。グループワークの結果からいくつかの例を挙げ、内容に応じた個別のフィードバックに対しては、参加者の方々が深く頷く様子が見られました。

### ワークショップ1の振り返りとディスカッション 風景



今回は、27 団体 42 名の患者団体の方々が参加されました。参加者の方々からは、「『話す』ことを難しく考え過ぎずに、ポイントを押さえながら進めていけば良いということがわかり、早速実践してみたいと思った。」、「講演を聞くだけでなく、実習があり、話し方が実習前よりも良くなっていることを実感できて、非常に満足度の高いセッションだった。」、「患者の会が記者会見で発表する際のツールを教えて頂いて、大変参考になった。」、「すぐに実践できそうな内容でとても良かったです。自分のクセがよくわかった。」等、今後の活動につながりそうなコメントが数多く寄せられました。